

## 平成 22 年度日本造園学会関東支部大会 報告

### ■平成 22 年 11 月 6 日（土） 大磯町役場～旧吉田邸、大磯町立郷土資料館研修室

#### 10：00～12：00 大磯町の邸園文化まちあるき

大磯町役場を出発し、旧吉田茂邸までの約 2km のまちあるきが行われました。まちあるきのガイドをしていただいたのは、大磯町ガイドボランティア協会の岡田範正事務局長、後藤恒徳氏、大崎和夫氏の 3 名の方々でした。今回のコースには旧林董邸や旧陸奥宗光・大隈重信邸といった別荘邸宅や、こゆるぎ浜からの景観、住民の方のオープンガーデンなど盛りだくさんのみどころがありました。ガイドの皆さまからは、背景や歴史、保存の取り組み等について解説をいただきました。また、9 月にも見学会にて訪れた旧吉田茂邸は、その後植栽が整理されたことにより、当初の邸園の姿が見える状態で見学させていただくことができました。



#### 13：00～16：00 公開研究会「ランドスケープ遺産は誰が継承するのか」

##### ～わたしたちの役割を考える 行政・所有者・市民・学会それぞれの立場で～

公開研究会は、県立城山公園内にある大磯町立郷土資料館研修室にて行われました。まず、矢野孝氏（大磯町都市計画課長）、岡田範正氏（前掲）、大倉祥子氏（大磯町観光協会理事）より、大磯町としての邸園文化保存の取り組みや、まちあるきガイドおよびオープンガーデン活動を通じた邸園文化の継承とその課題についてお話いただきました。つぎに他の地域の事例として、阿部勉氏（葉山環境文化デザイン集団理事）、平井太郎氏（小田原まちづくり応援団）より、葉山および小田原における邸園文化保存の取り組みの現状と課題についてお話いただきました。以上の皆さまのお話に対するコメントとして、白井充氏（神奈川県平塚土木事務所）からは行政の立場としての意見、屋代雅充氏（東海大学観光学部教授）からは地域と協働して活動されている立場からの意見、小野良平氏（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）からは学会の立場としての意見をいただきました。



■平成 22 年 11 月 7 日（日） 日本大学湘南キャンパス

---

9 : 30~12 : 15 事例・研究発表会（口頭発表）

口頭発表では 19 件の事例・研究発表が 2 会場にて行われました。学生を中心とした若手の方の発表が多く、質疑応答も盛んで活気に溢れた発表会となりました。



13 : 30~15 : 00 事例・研究発表会（ポスター発表）

ポスター発表では 20 件の事例・研究発表が行われました。今回より、ポスターツアーとして発表者が各自ポスターの前でショートプレゼンテーションを行った後に質疑応答を行う形式で行われ、大変活発な議論が行われました。また、同時に卒業制作の学生作品展示レビューならびに各種団体からの招待展示も行われ、いずれも多くの方の来場者で大変盛況でした。



15 : 00~17 : 00 デザインワークショップ

「サマースタジオ 2010 千年のランドスケープ」

首都圏の造園や建築等を専攻する大学生達が、若手実務者による指導、助言を受けながら、調査・計画・設計のプロセスを経て、図面、パネル、模型等の製作を行うワークを 7 月から行ってきました。今回はテーマ毎に海岸、河川、低地、崖線、丘陵に分かれた計 5 チームが、それぞれ他大学の学生同士と議論し協力しながら進めてきた苦勞の成果を、模型やパネルとスライドにて発表しました。



17 : 15~19 : 00 交流会

約 60 名の参加があり、特に学生を中心とした若手の方の参加者が多く、大変盛況のうちに終わることができました。

